

令和3年度 鈴鹿市立白子小学校関係者評価表								
経営理念	「わかる授業！友だちいっぱい！ 今日も来てよかったと思える白子小学校」				【めざす学校像】	・児童が登校するのが楽しい学校 ・教職員が充実感の得られる学校 ・保護者、地域に信頼される学校	【めざす子ども像】	・確かな学力を身につけた児童 ・豊かな人間関係を築くことができる児童 ・心身ともに健康で、粘り強く取り組む児童
中期経営目標	短期経営目標	担当	目標達成のための方策	評価指標・行動指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
		研修	全教員による授業公開	・研究授業(事前・事後授業含む)を行う教員100% ・授業公開ウィークの取組 各学年100%	○研究授業実施率は100%。 ○授業公開ウィークの取組 100%。 ○同僚性を高めるとともに、系統性を意識して指導することの大切さを再確認することができた。 ●授業公開ウィークを行ったが、参観者が少ない学年もあった。また、授業力を高めるためにも、参観後、じっくりと授業についての感想を交流し合う時間を取ることができるとよかった。	・コロナ禍の中ですが、子どもたちの学びの質を落とさないためにも、引き続き、教員同士学び合いながら、教員の指導力も高めていってほしい。	・一昨年度の反省を踏まえて導入した「授業公開ウィーク」の取組だが、その意義、必要性について再度、全教員で共通理解する。	
		研修	「めあて」「まとめ」「ふり返し」を位置づけた基本的な授業スタイルの確立	・子どもの思考の流れに沿って、「めあて」「まとめ」「ふり返し」を位置づけた授業を行っている教員 100%	○「めあて」「まとめ」「ふり返し」を全教員で共通理解を図り、意識して授業に臨んだ。 ○教材研究をしっかりと行い、「教えること」と「考えさせること」を意識して授業を実施できたので、子ども一人一人の考えを大切にしながら、子どもの思考の流れに沿った授業をすることができた。 ○毎時間、めあてを提示することで、何を学ぶのが明確になり、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことにつながった。 ●問題解決の見通しをもつ中で、子どもたちからめあてを引き出したいが、教員が一方向的に提示してしまうこともあった。 ●学習のねらいからやらずれてしまった「めあて」を設定することもあった。 ●特に算数では、適用問題に時間もかかり、授業の「ふり返し」の時間を十分に確保できないこともあった。そのため、1時間の授業の時間設定を吟味する必要がある。	・「めあて」を提示することによって、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことに繋がり、うれしく思います。続けていってください。 ・「ふりかえり」は、宿題や朝の学習の時間をつかえば、時間の確保をすることもできるのではないかと思います。	・子どもたちから「めあて」を引き出すためにも、問題提示のとき、「前の時間との違いは何ですか。」「これまで学んだことで使えることは何ですか」と児童に問いかけることで、子どもたちから本時は何を考える時間なのかについて気付かせる。 ・言葉での「ふりかえり」は課題となっているので、まずは適用問題を確実にできること、その上で、言葉や文で振り返りができるよう今後も指導する。 ・「ふりかえり」の時間を十分確保するためにも、単元全体を見通して、「ふりかえる」場面をどの授業のどの場面にどのような方法で行うかしっかり検討する。 ・令和4年度は、国語科で研修を行う。めあての設定の仕方も含め、授業づくりを行う上で、困っていること分からないことを気軽に学び合える機会を設ける。	
	新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善	研修	言語活動の充実とICT機器の活用	・各教科での言葉を使った活動(話す・聞く・書く・読む)の充実 ・授業での効果的なICT活用に関する全体研修会 年1回以上	○「聞き名人」「話し名人」「声のものさし」について、年度当初全教員で共通理解を図り、掲示することで日常的に意識することができた。 ○1時間の授業の中で互いの考えを伝え合うような「子どもたちが学び合う場面」を設定したことで、学習内容の理解につながった。 ○言葉や数、式、図、表や既習事項を活用して自分の考えを説明できる子どもが増えてきた。 ●だれに伝えるために発言しているという相手意識がまだ低い。 ●ペアやグループでは、自分の考えを伝えられる姿が見られてきたが、全体の場では苦手な子もいる。 ○ICTミニ研修会 年間8回 ○端末の基本的スキルを習得することができた。 ○ICT活用に関する全体研修会 年間1回 ○ICTを活用した効果的な授業実践を共有し学び合うことができた。 ○1人1台端末を活用(Googleドキュメント、Googleスライド、Googleフォーム、Google Jamboard)することで、自分の考えや思いを持たせ、他者に発信していくような授業づくりを試行錯誤しながら挑戦した。	・全体の場で自分の考えを伝えるのが苦手な子は、ペアやグループで繰り返し自分の考えを伝えながら、少しずつ慣れていって、最終的に多くの人の前で自分の考えを伝えられるといいと思います。 ・良い授業ができていると思います。	・相手意識をもたせるために、日常的に「聞き名人」「話し名人」「声のものさし」を教員が意識し、授業中の子どもたちの発表の仕方や様子を見取り、価値づけて称賛し、子どもたちに意識をさせる。 ・子どもたちが全体の場でも伝え合えるように、まずは子どもたちの考えを教師が傾聴し受け止める。 ・図やブロックを使ったりするとともに、ICT機器やデジタル教科書を取り入れながら、答えを導き出す過程を楽しめるように、学年に応じた、理解が深まる学び合う場面を設定する。 ・自分の思いを伝えたいという思いをもって、発言すれば必ず相手意識をもった話し方聞き方が生まれる。話し方聞き方の技能(スキル)向上と共に学習課題や発問を工夫し、学び合いが活発になるような教師の手立てを工夫する。 ・日常的にICTを活用し、少しでも発表する場(行事も含む)を確保する。	

確かな学力の向上

一人ひとりの児童の確かな学力を保障する。

基礎学力の定着	研修	「学-Viva」の活用と学調・みえSCの結果分析を踏まえた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 学-Viva等の活用している学年 100% みえSC・学調結果 県比・全国比100以上 全教職員による学調・みえSCの結果分析と改善策の検討 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 学-Viva等の活用している学年 100% 学調 国語 正答率66.0 県比+2.0・全国比+1.3 算数 正答率71.0 県比+2.0 全国比+0.8 第1回みえSC <ul style="list-style-type: none"> 5年 国語 正答率67.7 県比+7.0 算数 正答率60.8 県比+3.9 4年 国語 正答率58.2 県比+1.4 算数 正答率72.5 県比+13.5 ○児童の弱みを意識した学-Viva等の活用をすることで、弱みの改善へとつながり、学調では全国比100以上を達成できた。 ○全教職員による学調(6年)とみえSC(4・5年)の結果分析をすることで、対象学年だけでなく、全教員が担任している学年において、どのような力を身に付ける必要があるのかを考えることにつながった。 ○分析結果をふまえ、算数科では、各学期ごとに重要単元を設定し、授業改善を進めることができた。 ●国語・算数とも記述式の問題は課題があるので、学校全体で系統的に指導し、児童に必要な力を身に付けていく必要がある。 ●「学-Viva」の活用が学調とみえSCの事前対策に偏っている傾向がある。そのため、日々の授業と効果的に組み合わせ活用していくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> みえSC、学調の結果がよくて、先生方の努力が結果につながってよかったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 記述式問題の課題を改善するために、カリキュラムマネジメントを行い、目的を明確にもち必然性のある書く活動年間指導計画に位置づける。 ・学力の定着を図るため、児童の弱みを日常的に意識し、学調とみえSCの直前対策だけでなく、児童の弱みに応じた重点単元、長期休業中の課題、朝の学習等においても「学-Viva」を活用する。 ・日々の授業の中でも、客観的な評価を取り入れ励みにする。
	研修	少人数指導(TT)によるきめ細かな指導	<ul style="list-style-type: none"> 算数科における効果的な少人数指導(TT・習熟度) 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導【1～6年】の実施率100%。 ○T1とT2で役割を明確にして授業を進めたことで、個に応じてきめ細かな指導をすることができた。 ●個に応じたきめ細やかな指導を進めていくためにも、子どもたちの今もっている力を把握し、保護者の意向や、児童の思いも考慮した上で、習熟度別指導を考えていく必要もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度の低い児童を重点的にきめ細やかな指導をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの今もっている力を子どもたちの「ふりかえり」(適用問題やノートの記述)や単元のまとめのテスト等で把握し、保護者の意向や児童の思いも考慮した上で、習熟度別指導を実施していくことも検討する。
	研修	朝の学習タイム(1・2年:毎日 3年以上:月・木)と自主プリント	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習タイムでの指導の充実 自主プリント 学期毎に1人50枚以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の学習タイムでは、新出漢字学習、自主プリント、児童の弱みを意識した学-Viva、ミライシードを効果的に組み合わせ活用することで、基礎学力の定着につながった。 ○自主プリント 達成率 1学期 学校全体 97.1 % (1年95.5% 2年93% 3年98.5% 4年95.5% 5年100% 6年100%) 2学期 学校全体 96.5% (1年98.5% 2年92.5% 3年100% 4年91.5% 5年 98% 6年98.6%) ○授業の進度に合わせて、復習や新単元への予習に活用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習タイムが基礎学力の定着に効果が表れているので、いい取組だと思います。 ・子どもたちの弱みが改善されるように、朝の学習タイムを引き続きお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習タイムでは、新出漢字学習、自主プリント、児童の弱みを意識した学-Viva、ドリルパークを効果的に組み合わせ活用し、基礎学力の定着につなげる。 ・算数以外の他教科のプリントも授業の進度に合わせて、復習や新単元への予習などに活用する。 ・児童任せにすると簡単な問題をしがちになるので、その時その時の授業の内容に合わせて担任の方でねらいをもって課題を提示する等、学力の定着につなげる。
	研修	「家庭学習の手引き」の活用	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート問6 「宿題をきちんとしていますか。」90%以上 保護者アンケート問7 「お子さんは、家庭学習の習慣がついていますか。」 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケート問6 「宿題をきちんとしていますか。」で肯定的回答91.7%。 ●保護者アンケート問7 「お子さんは、家庭学習の習慣がついていますか。」で 肯定的回答66.2%。 ●児童と保護者のアンケート結果の差から、保護者は、宿題をきちんとするだけでなく、自主的に学習に取り組むことができこそ家庭学習の習慣がついたと考えていることがうかがえる。家庭でも、めあてをもって学習に取り組む姿を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着のために、宿題をきちんとすることは今後も大切にしていってほしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」を効果的に活用し、基礎学力の定着と家庭学習の習慣がつくように努める。
	研修	学習ボランティアの活用	<ul style="list-style-type: none"> 学習ボランティアを活用している学年 100% 	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 100%;"></div>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学習ボランティアの募集をお願いします。 ・学習支援ボランティアとして、子どもたちにかかわれる時間が大変少なくなり残念でした。 ・学習ボランティアのなり手を引き続き募集するようにお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、学習ボランティアの募集を行う。 ・算数だけでなく担任の先生方の要望も踏まえて、図工の伊勢型紙や家庭の調理実習などでも活用する。

読書活動の推進	研修	日常的な読書活動(朝読書・すき間時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー読書の実施 年1回以上 ・児童アンケート問5 「本(教科書, 雑誌, マンガ以外)を読むのが好きですか。」90%以上 	<p>○ファミリー読書(11月)を実施し, 家庭での読書活動に取り組んだ。児童や保護者からも, 読書をする事の大切さを再確認できる場となったとの感想を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童アンケート問5 「本(教科書, 雑誌, マンガ以外)を読むのが好きですか。」で肯定的回答71.5%。 ●保護者アンケート問6 「お子さんは, 進んで本(教科書, 雑誌, マンガ以外)を読んでいますか。」で肯定的回答51.6%。 ●読み聞かせ等では, 興味深く聞く様子が見られるが, 自ら読書する意欲が弱い。 	<p>・読書をする入口として学習漫画や学習雑誌を使うことも一つの方法だと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー読書は, 積極的に取り組まれている家庭も多かったため, 今後も継続する。 ・朝の学習タイムやすき間時間に, 教員と一緒に読書したり, 教員の「おすすめの本」を紹介し読み聞かせをしたりすることで, 本を読むことが好きな子を増やす。 ・すき間時間に読書ができるように, 子どもたちに常時1冊以上, 絵本袋に用意しておくようにする。 ・図書巡回指導員さんから「図書館だより」を発行してもらい, 普段図書館に行くことが少ない子どもたちにも読書の世界へ誘うようにする。(学期に1回) ・すき間時間にクロムブックでドリルパークをする場面と読書をする場面の住み分けを全校で統一する。
	研修	教師やボランティアによる読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート問6 「お子さんは, 進んで本(教科書, 雑誌, マンガ以外)を読んでいますか。」90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ●オンライン授業などによる授業の遅れを取り戻すため, 朝の読み聞かせの時間をモジュール学習(授業時間)にあてることになったため, 読み聞かせの機会が少なかった。 	<p>・学校通信のファミリー読書の記事に「読み聞かせ」を行っている家庭がみえました。本好きな子を一人でも多く育てるために, 家庭にも協力してもらおうと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況をみながら, 少しずつでも教師によるお話宅配便や読み聞かせボランティアブックさんの読み聞かせを実施する。 ・家庭学習のメニューとして, 読書を取り上げ, 一日10分間を読書の時間として活用していくように家庭に協力をお願いする。 ・長期休業中に, 図書館だよりとともに, 家庭向けに「読書ビンゴ」を配布し, 子どもたちや保護者にも楽しみながら読書する機会をつくる取組をする。
	研修	図書巡回支援員による多様な読書機会の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークの実施 各学年1回以上 	<p>○ブックトーク実施率100% (1年12/2 2年7/15 3年11/25 4年10/7 5年1/27 6年10/14)</p> <p>○教科の学習に関連して様々なジャンルの本に触れる機会になり, これまでより読書の幅を広げることができた。子どもたちも食い入るように聞いていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級図書の充実もお願いします。 ・活字離れにならないように工夫されていて良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年年間1回以上, 年間指導計画に位置付け, ブックトークを実施する。
	研修	魅力を感じる図書館整備	<ul style="list-style-type: none"> ・年間貸出冊数の状況 ・図書委員会による「おすすめの本」紹介 前後期1回以上 ・図書巡回指導員さんによる図書館整備や本紹介 	<p>○年間貸出冊数 8653冊【2学期終了時】(昨年度年間 4757冊)(4月527冊 5月1367冊 6月1876冊 7月1170冊 9月156冊 10月1427冊 11月1248冊 12月882冊)</p> <p>○貸出冊数が大幅に増加した。</p> <p>○図書委員会による「おすすめの本」紹介を実施できた(3学期は, 2月に実施予定)。読書活動への意欲づけとなった。</p> <p>○図書巡回指導員さんによる図書館整備や本紹介</p> <p>○書架整理, 新刊登録・カウンター・季節の掲示・本紹介(世界の名作, スポーツ, 夏休みに向けての本, 読書感想文, 読書感想画, SDGs, ハロウィーン, 巡回支援員のおすすめ本等)により, 図書館来館への意欲向上につながった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書担当の先生方, 図書委員会委員のみならず, 図書巡回指導員の方などのおかげで, 昨年度より年間貸出冊数が大幅に伸び, うれしく思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力を感じる図書館になるように, 図書巡回指導員と連携し掲示物作成や図書委員会の活動の補助をしてもらう。 ・図書委員会による「おすすめの本の紹介」を継続しながら, 新しい企画も行う。 ・新型コロナウイルス感染状況をみながら, 図書館整備ボランティアさんの活動(本の修理や季節の掲示等)を少しずつでも行っていただく。

教育活動全体を通じた人権教育を推進する。	教育活動全体を通じた人権尊重を基盤にすえた授業実践	研修・人権特支	「わかった」「できた」という達成感	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート問4 「授業はわかりやすいですか。」90% 児童アンケート問1 「学校に来るのは、楽しいですか。」90% 保護者アンケート問1 「お子さんは、元気よく学校に行っていますか。」90% 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート問4 「授業はわかりやすいですか。」で肯定的回答88.6%。 ●学校全体の校内研修体制の中で「わかる授業づくり」に取り組むとともに、少人数指導によるきめ細かな指導を実施し、大半の児童は授業内容を理解しているが、10%強の理解が弱い児童の底上げが必要である。 ●児童アンケート問1 「学校に来るのは楽しいですか。」で肯定的回答86.1%。 ○保護者アンケート問1 「お子さんは、元気よく学校に行っていますか。」で肯定的回答95.1%。 ●学校生活に対し、保護者・児童共に、概ね楽しいと感じているが、保護者に比べ、子どもの評価がやや下がる。引き続き、保護者と連携して、子どもの様子を丁寧に見ていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの話はよく聞いてあげてほしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を効果的に活用することで、子どもたちが「わかった」「できた」と実感し達成感をより得られるようにする。 ・「学校に来ることが楽しく」なるように、子どもたちが主体的に取り組む活動(委員会活動、調べ学習、学級活動等)を教員が指導・支援し、子どもたち自身に達成感や充実感を味わわせる。 ・子どもたちの学校での様子が保護者にわかるように、「学校だより」や「学年通信」「HP」などを活用し発信する。 ・コロナ禍の制限の多い学校生活ですが、引き続き状況を見極め、安全を確保しながら、できることを工夫して充実した学校生活になるように努める。
		人権特支	承認活動の充実と自尊感情・自己効力感の向上	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのよさを認め自己肯定感を高めるような取組 100% 児童アンケート7 「先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか。」90% 	<ul style="list-style-type: none"> ○主な取組として、 1年「みんな じょうず」 2年「これまでのわたし いまのわたし」 3年「実はこれ 全部自分なんです」 4年「みんなちがって、みんないい」 5年「ケンタの役割」 6年「ちがいを認め合おう～「ふつう」って何だろう?～一人ひとりが自分らしく～」がある。 また、道徳科において、「個性の伸長」に関する学習に取り組んだ学年もある。 ○児童アンケート7 「先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか。」で肯定的回答92.2%。 ○教員は、大半の子どもたちにとって安心して話すことができる存在になっているが、一部の児童との関係性ができていないことを念頭に子どもと向き合う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、一人一人のよさを認め、自尊感情・自己効力感が向上するようにお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に「一人ひとりのよさを認め自己肯定感を高める」取組を位置づける。 ・児童が教員と安心して話せる関係づくりをするためにも、教職員の働き方改革を一層進め、教員が子どもたちと向き合える時間の確保に努める。 ・教員はアンテナを高くし、子どもたちの日頃の言動を注意深く見守り、自尊感情・自己効力感の向上に向けて、小さな成長を見逃さずに承認する。
		委員会担当	学校生活を豊かにする自主的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動(月1回)の実施 各委員会での自主的活動の取組 前後期各1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会活動(年間11回)【4/12 5/10 6/7 7/5 9/27 10/18 11/1 12/6 1/17 2/7 3/7】 ○各委員会の自主的活動の取組を積極的に行った。 美化掲示委員会: 掲示クイズ 体育委員会: なわとび運動 給食委員会: 給食残量調べ 図書委員会: おすすめの本紹介 代表委員会: いじめ俳句 ○1人1台端末を活用し、委員会活動に取り組む様子が見られた。(給食残食調べ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動が活発に行われているので、とてもいい事だと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導・支援のもと、子どもたち自身に問題意識をもたせ、前後期各1回以上は、自主的活動の取組を進め、全校児童に発信し、学校生活を豊かにしていく。
人権が尊重される人間関係							

豊かな心の育成

づくり, 学級づくり	人権・特支	身の回りの人権課題の解決に向けた授業実践(道徳の時間等を活用)	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習の取組 各学年1回以上 いじめアンケート 「いじめを見て、伝えることのできる子ども」90%以上 児童アンケート問2 「学校には、仲良しの友だちがいますか。」90% 保護者アンケート問2 「お子さんの友人関係は良好ですか。」90% 	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習の取組 各学年1回以上を実施することができた。 いじめアンケート ・「いじめを見て、伝えることのできる子ども」で肯定的回答86.9%。 ●低学年よりも高学年の方が肯定的回答の割合が低くなっている。 ○児童アンケート問2 「学校には、仲良しの友だちがいますか。」で肯定的回答96.9%。 ○保護者アンケート問2 「お子さんの友人関係は良好ですか。」で肯定的回答92.9%。 ○友人関係は90%以上の子どもが肯定的回答をしており、ほぼ良好です。 ●「そう思う」割合だけをみると、保護者の割合が子どもの割合よりも低くなっていることから、保護者の方が心配や不安を抱いている傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題は、とても難しいので、教員・児童・保護者、みなさんと協力して、いじめをなくしてほしいです。子どもたちが、いじめを伝えるのは勇気がいります。大人が背中をおしてあげてほしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめは絶対に許せない」ことを、繰り返し子どもたちに伝え、いじめられたりいじめに気付いたりしたときには、いじめを訴える子どもたちの安全確保を徹底する姿勢を示すと共に、誰かに相談することの重要性を繰り返し指導する。 いじめ防止月間に関連した取組(いじめ防止標語やいじめ防止ハートカード等)を実施する。
	人権・特支	研究授業を含む全体研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修会 年6回以上 幼小中教職員による研修会 年1回 幼小中間の情報交換(校区人権教育推進協議会)や取り組みの充実 人権フォーラムへの参加と還流 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体研修会を年間6回実施できた。 ○幼小中教職員による研修会実施できた。(8/2) ○人権フォーラムを実施(12/3) ○学校を代表して参加し、他の小学校の子たちと考えを交流することを通じて、多様な考えに出会い、自分の見方や考え方を広げることができた。 ○人権フォーラムの還流を職員会議で実施する。(1/26) ●人権フォーラムに参加した子どもたちの様子や感想より学校全体として育てていく必要がある人権感覚やそれに対する教員の指導方法等について見つめ直すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権フォーラムに参加し、自分の見方や考え方を広げられたことはいいことと思います。ぜひ、参加した児童が同じ学年の児童にも、自らが学んできたことを伝えることで、学年の友だちも自らの見方や考え方を広げられるようにしていただきたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権フォーラムに参加した子どもたちの様子を還流する機会をもつ。そして、その反省をもとに、成果は継続し、課題については次年度の人権教育に反映し改善する。 人権フォーラムに参加した児童自身が、放送やオンラインなどを通じて、自らが学んだことを全校児童に伝える場を持つ。
	人権・特支	核となる児童を中心に据えたレポート研修会	<ul style="list-style-type: none"> レポート研修会 年2回 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間3回実施。(6/16 8/4 2/24【予定】) ○教員同士が、お互いのレポートを読み合うことで、学校での様子だけで判断することなく、子どもたちの育ちを意識して人権教育に取り組むことの大切さを再認識できる場となった。 ○視点児童を中心にクラスの実態を把握することができることで、個に応じた支援をする上でとても役立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に応じた支援をする上で、教員同士が互いにレポートを読み合い、高め合うことを大切にしていってください。 	<ul style="list-style-type: none"> 視点児童を中心に据えたレポート研修会を実施し、核となる子どもを意識した人権教育に取り組む。
	人権・特支	特別支援教育COを中心とした支援体制の確立と組織的な対応	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の職員会で児童についての情報共有 SLS(スクールライフサポーター)や支援員との連携 「活動記録簿」等を活用した関係者との情報共有 SC(スクールカウンセラー)との連携 「教育相談」後の関係者との情報共有 支援会議の実施(必要に応じて) 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月、職員会議において支援を要する児童についての情報共有を実施できた。 ○SLS来校時数 年間357時間 支援員来校時間 年間185日 ○SLSや支援員作成の「活動記録簿」等を活用し、個別の支援を要する児童について、関係教員と情報を共有した。それにより、必要に応じて、個に応じた支援体制を組んだり、登校支援をしたりして組織的に対応することができた。 ○SC来校日数 年間11回 SC来校日には、「教育相談」後に、SCと担任や特別支援コーディネーター等が情報を共有した。そして、SCの専門的な立場からの助言をいただくことで、個に応じた支援につなげることができた。また、必要に応じて支援会議を実施することができた。 ●SCの来校日は年間11回しかないため、保護者にとっては相談を受けたくても日程の調整が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援体制が確立し、組織的に対応することができているようで安心しました。 	<ul style="list-style-type: none"> SLS, 支援員の活動記録簿を活用し、関係教員で情報共有し組織的に対応する。 保護者がSC来校日以外に相談を希望された場合は、同じ中学校区の小中学校と調整し、可能な限り対応する。

特別支援教育を組織的に推進し、個に応じた支援を充実する。	不適応・不登校(傾向)児童等への支援の充実	人権・特支	個別の教育支援計画・個別の指導計画の整備と児童の情報共有	・不登校児童の個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成(4年SY・6年HN 2名)	○不登校児童の個別の教育支援計画・個別の指導計画を保護者の思いに寄り添って作成し、学期ごとに保護者と確認し合うことで、個に応じた支援につなげることができた。 ○家庭訪問シートや電話連絡シートを活用し、関係教員間で情報共有をすることで、今どんな支援が必要なのかを考え、組織的に対応することにつなげることができた。	・子どもたち一人ひとりの家庭状況や背景はさまざまです。そのため、子どもたち一人ひとりに応じた適切な支援が必要となると思います。関係の教員同士で情報共有を行い、組織的に対応することはとても大切だと思います。	・個別の教育支援計画・個別の指導計画を保護者の思いに寄り添って作成し、学期ごとに保護者と確認し合い、個に応じた支援につなげる。 ・家庭訪問シートや電話連絡シートを活用し、関係教員間で情報共有し、組織的に対応する。	
		人権・特支	保護者や各関係機関と連携した効果的な支援会議の開催	・支援会議、ケース会議、教育相談の実施(必要に応じて)	○中学校と連携し、途切れない支援につなげるための引継ぎ支援会議を7件実施した。(1/13 1/20 2/2 2/22) ○幼稚園・保育所と連携し途切れない支援につなげるための引継ぎ支援会議を3件実施した。(1/24 1/27 2/18) ○特別支援コーディネーターを中心に、保護者及び関係機関と連携し、個別の適切な支援につなげるための引継ぎ支援会議を3件実施した。(1年, 3年, 6年) ○支援会議では、効果的な支援に向けて、保護者、学校そして各関係機関等が参加することで、児童の困り感や保護者の思いに寄り添いながら、児童の実態に合った効果的な支援方法について共有できた。 ●支援が必要な児童の増加と、障がいの種別・程度の多様化がみられる。よりきめ細かい支援のためにも人員増が望まれる。	・幼稚園・保育所、小学校、中学校と途切れない支援を実施していただくようお願いいたします。	・支援が必要な児童の増加と、障がいの種別・程度の多様化がみられるので、特別支援コーディネーターを中心に、保護者や各関係機関と連携した支援会議を開催し、児童の実態に合った効果的な支援方法について共有し実践する。	
	特別支援教育の視点にたった教育活動の充実	人権・特支	見通しをもたせた教育活動の実施		・特別支援教育の視点を意識した「分かりやすい」授業づくり(見通しの提示・視覚支援)をする。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成	○ICTを活用(1人1台端末、プロジェクター等)し、見通しの提示・視覚支援を行い、特別支援教育の視点を意識した「分かりやすい」授業づくりができた。	・新しいことができれば、思い切りほめてあげてほしいです。	・研修部と連携し、「わかる授業づくり」の視点として、特別支援教育の視点を取り入れる。
		人権・特支	児童の困り感に寄り添った具体的な手立て			○個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、一人一人の困り感に寄り添った手立てを保護者と共有し取り組んだ。		・児童と保護者の思いに寄り添いながら、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、一人一人の困り感に寄り添った手立てを保護者と共有し取り組む。
		研修・人権特支・生活	刺激の少ない落ち着いた学習環境づくり	・黒板前面の掲示物はなし 100% ・無言清掃 ・使い勝手の良い整理整頓された学習環境		○全クラス 黒板前面 掲示物なし ○黒板の周囲をすっきりすることで、集中して授業に取り組めた。 ●無言清掃:清掃担当や担任を中心に日常的に児童に働きかけをしてきたことにより児童に浸透しつつあるが、まだ徹底はされていない。引き続き、全教職員で児童に働きかけいく。 ○学習環境が改善されてきた。(Chromebookを引き出しへ、ブックスタンドの設置、お道具袋の活用)	・学校へ行く機会は少ないが、比較的、清掃は行き届いていると思います。	・刺激の少ない落ち着いた学習環境づくりに取り組む。 ・無言掃除が徹底されるように、無言掃除の目的を児童に伝えるとともに、清掃担当や担任を中心に全教職員で粘り強く日常的に児童に働きかけをしていく。 ・個人の学習用具(習字道具、リコーダー等)が扱いやすく、片付けしやすいように、置き場所を工夫する。

<p>健康でたくましく生きる力を創造する。</p> <p>基本的な生活習慣に基づいた生活指導を充実する。</p>	<p>落ち着いた生活態度と健全な心の育成</p>	生活	<p>重点目標の粘り強い取組(挨拶・時間を守る・履物を揃える)</p>	<p>・児童会活動による自主的な取組</p> <p>・(柔軟に捉えた)チャイム席ができてきている児童の状況</p> <p>・下駄箱やトイレの履物状況</p> <p>・児童アンケート問3 「進んであいさつをしていますか」90%</p> <p>・保護者アンケート問4 「白子小学校の子どもたちはきちんと挨拶ができていますか」90%以上</p>	<p>○いじめ俳句・ピンクシャツ運動の実施。</p> <p>○あいさつ運動 11回(代表委員会)3回(教員)</p> <p>○チャイム席がほぼ徹底できた。</p> <p>●下駄箱のくつやトイレのスリッパは、全て場所できちんとそろえることができていますとできていないときがある。</p> <p>●児童アンケート問3 「進んであいさつをしていますか」で定期的回答78.6%</p> <p>●保護者アンケート問4 「白子小学校の子どもたちはきちんと挨拶ができていますか」で肯定的回答84.1%</p> <p>●コロナ禍のため年度当初は児童による「あいさつ運動」の取組が難しかったが、後期に入ってから代表委員による「あいさつ運動」が活発に行われ、改善されつつある様子も見受けられる。</p>	<p>・重点目標(挨拶・時間を守る・履物を揃える)は、社会に出ても必要なことなので、家庭と協力して取り組み、子どもたちに身につけてほしいと思います。</p> <p>・児童会のみなさんが、大きな声を出して挨拶をしていて、他の児童にも反映しているようで良いと思います。また、それが一人一人の自主性にもつながっていくのではないかと。代表委員のメンバーだけでなく、高学年全員交代制で経験するのもいいと思います。</p> <p>・放課後は、「こんにちは」と挨拶しても、なかなか返ってきません。ちょっと残念です。</p>	<p>・今後も心の通い合うあいさつができるように、あいさつの大切さを引き続き指導し、取組を重ねる。</p> <p>・生指を中心に履物をそろえる取組を講じる。</p>	
		生活	<p>清掃活動や委員会活動の充実と校内美化</p> <p>「環境が変われば心が変わる。心が変われば行動が変わる。・・・」</p>	<p>・すっきりと整理された教室・廊下(個人もちブックススタンド・お道具袋の活用)</p> <p>・児童アンケート問9 「掃除を時間 いっぱい無言でしっかりしていますか。」90%</p> <p>・校内掲示板の定期的な張替え 学期1回以上</p>	<p>○教室・廊下を整理するよう声かけをしたり職員作業をしたりした。しかしながら、片付けがされずに、物が長期間置いたままの状況も見られる。</p> <p>○個人もちブックススタンドとお道具袋を活用することで、1人1台端末を活用できる学習環境を整えることができた。</p> <p>●児童アンケート問9 「掃除を時間 いっぱい無言でしっかりしていますか。」で肯定的評価74.9%。児童の無言清掃がまだ徹底されていない。</p> <p>○校内掲示板の定期的な張替えができた。工夫が見られる学年もあった。(いじめ防止俳句、季節の俳句、新体力テストのアドバイス、図画作品等)</p>	<p>・物が増えると整理が大変だと思います。こまめに物を持ち帰るか片付けるようにご指導をお願いします。</p>	<p>・学習環境がよりよくなるように、校内美化に努め、不必要な物はできるだけ家に持ち帰る。また、使用した物はできるだけ早く片付ける。</p> <p>・無言清掃が徹底されるように、無言清掃の目的を児童に伝えるときにも清掃担当や担任を中心に全教職員で粘り強く日常的に児童に働きかける。また、美化掲示委員会による子ども自身からの無言清掃に関わる取組も支援する。</p>	
	<p>健康でたくましく生きる力を創造する。</p> <p>基本的な生活習慣に基づいた生活指導を充実する。</p>	<p>不登校(傾向)対策の推進と いじめのない学校づくり</p>	生活・人権特支	<p>自尊感情・自己効力感の向上(人権教育部と連携 学級(学年)活動・異学年交流等)</p>	<p>・日々の学校生活の中で、子ども自身が達成感や受容・承認を感じる取組</p>	<p>○学活、特別の教科道徳、人権教育をはじめとする教育課程全体で、取組を進めた。</p> <p>●自己肯定感をもてず、課題のある児童も一部見られる。</p>	<p>・子どもたちが達成感をもてる取組を引き続きお願いします。</p>	
			生活	<p>いじめ防止に向けたアンケートの実施</p>	<p>・いじめアンケートの実施 年3回</p> <p>実施後の丁寧な聞き取りと指導及び保護者への連絡</p>	<p>○年間3回実施。丁寧な聞き取りと保護者への連絡を徹底することで、早期解決を実現することができた。</p>	<p>・定期的にいじめアンケートを実施することは、普段自ら相談することができにくい子どもたちにとって、とても大切な取組になっていると思います。</p>	<p>・未然防止に努める。いじめ防止に向けたアンケートを実施し、実施後は、早期解決を実現するために、児童の思いに寄り添い、丁寧な聞き取りと指導を行うとともに、保護者への連絡を徹底する。</p> <p>・生指部及び学年と連携をとり、いじめのない学校をめざして、組織的に取り組む。</p>
			人権	<p>保護者・関係機関と連携した組織的対応</p>	<p>・支援会議、ケース会議、教育相談の実施(必要に応じて)</p>	<p>○必要に応じて、支援会議、ケース会議、教育相談の実施することができた。</p>	<p>・不登校傾向の子どもやその保護者の思いや願いを大切にして、教員の皆さんと保護者、関係機関のみなさんと協力することで、一人でも多くの子どもたちが一日でも長く安心して学校に通ったり、自らの自立に向かって歩み出してほしいです。</p>	<p>・保護者・関係機関と連携し組織的対応を行い、必要に応じて、支援会議、ケース会議、教育相談を実施する。</p>
			生活	<p>「白子小のきまり」の共通理解と指導の徹底</p>	<p>・担任外教員が児童を注意した場合、教員間での情報共有の徹底・担任による再度の指導による確認</p>	<p>○教員間での情報共有の徹底と担任による再度の指導による確認を行い、指導の徹底と再発防止を図ることができた。</p> <p>●早い登校時刻の徹底にはまだ至っていないので、PTAと連携し、対応していく必要がある。</p>	<p>・登下校時刻に遅れる、一人で登下校する姿のみかけなど心配な子どもを見つけたら、一緒に学校まで登校したり、学校に連絡したりします。</p>	<p>・PTA常任委員会(1月29)及び新地区委員会(2月19日実施)において、登校状況を説明し、8時間錠に合わせた適切な出発時刻の設定の協力を依頼する。</p>

児童理解に基づいた統一感のある生徒指導と問題行動の未然防止・迅速な初期対応	人権	アンテナを高くして子どもの変化をキャッチ	・気になる児童との日常的なコミュニケーションの工夫(会話・作文等) ・日々の学校生活の中で、子ども自身が達成感や承認されていることを感じる取組	○気になる児童への日常的なコミュニケーションを行うことで、児童の小さな変化にも気づき、指導に生かすことができた。	・教員と子どもたちがコミュニケーションをする時間をできるだけつよようにして、子どもたちの変化に気づくようにしてください。	・気になる児童と日常的なコミュニケーションを心がけ、児童の小さな変化にも気づくようにする。
	人権	保護者との信頼関係の構築(こまめな連絡)	・こまめな電話連絡 ・家庭訪問の実施(原則欠席が連続三日以上)	○玄関先での全校一斉の家庭訪問を実施【希望された家庭】(6/24 6/30) ○家庭訪問については、コロナ禍の中、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から制約される面もあったが、こまめな電話連絡を行い、保護者との信頼関係の構築に努めた。	・コロナ禍の中、保護者との信頼関係を構築するのは大変だと思います。制約のある中ですが、家庭訪問は大切にしていってほしいと思います。	・保護者との信頼関係の構築のためにも、令和4年度も年度当初の家庭訪問は希望制で実施予定です。
	生活	問題行動発生時での児童の心情を引き出す指導と毅然とした対応	・問題行動をするに至った児童に寄り添う聞き取り ・児童自身に何がどうしてよくないのか、繰り返さないためにどうあるべきか考えさせる指導 ・人間として許せないことには厳しく毅然と指	○担任だけでなく、学年(団)部の生指や生指担当中心に組織的に対応することができた。 ●毅然とした指導も必要であるが、教員が一方的に説諭するだけでなく、問題行動を自分自身で振り返らせる指導も重要である。	・担任だけがかえこむことがないようにして、組織的に対応することはいいと思います。	・児童の心情を引き出す指導により、問題行動の背景にある要因を見定め、児童自身に気づきと反省を促す毅然とした指導を大切にする。 ・今後も組織的に対応する。
	生活	教職員間の情報共有と迅速かつ組織的な対応	・学年(団)部の生指や生指担当中心に組織的対応	○未然防止の徹底と被害者側の思いに寄り添った初期対応を、組織的に迅速に対応することができ、深刻な状態になる前に、解決することができた。 ●複雑化・多様化する事案が増えてきた。そのため、より一層組織的に対応する必要がある。	・初期対応はととも大切です。そのときの対応次第で、解決するまでに時間をととも要する事態になる場合があります。初期対応を大切にすることはとてもいいと思います。	・教職員間の情報共有と迅速かつ組織的な対応を実施する。
学校安全計画に基づく安全教育の推進(生活指導部と連携)	生活	地域・家庭と連携した防災・防犯の取組(津波避難訓練・引き渡し訓練等)	・大地震に伴う津波を想定した避難訓練・引き渡し訓練 年1回 ・火災を想定した避難訓練 年1回 ・地震を想定した避難訓練 年1回	○コロナ禍のため、大地震に伴う津波を想定した避難訓練は動画視聴による実施(5/19) ●引き渡し訓練は書面開催。 ○火災を想定した避難訓練 年1回(9/22) ○地震を想定した避難訓練 年1回(3/11) ●コロナ禍の中とはいえ、津波避難訓練が実施できなかったため、1・2年生は、避難場所の白子中学校までのルートを実際に歩いたことがない。	・避難訓練は必要だと思います。また、参加もしたいです。	・保護者、地域と連携した全校津波避難訓練、引き渡し訓練を実施し、地域ぐるみでの防災・防犯の取組をする。
	生活	教職員研修の実施と非常時の組織的な体制を確立(心肺蘇生救急法)	・全職員による心肺蘇生救急講習会 年1回 ・エビベン講習会 年1回 ・白子小危機管理マニュアルに関する研修会 年1回以上	○全職員による心肺蘇生救急講習会(4/28) ○エビベン講習会(4/28) ○白子小危機管理マニュアルに関する研修会(5/26) ●より実効性のある危機管理マニュアルとなるように、定期的に見直し、改善する必要がある。	・いつどんなときに非常事態が起こるかわかりません。適切な対応ができるように毎年教職員の皆さんの講習会は実施していただくようお願いします。	・全職員による心肺蘇生救急講習会及びエビベン講習会は令和4年度も実施する。 ・より実効性のある危機管理マニュアルとなるように、全教職員で研修する機会をもつ。
	生活・教頭	生活の中に潜む危険個所の点検・修理	・安全点検 学期1回 ・「子どもを守る家」の点検 年1回	○安全点検 1学期4/30 2学期 12/23 3学期 2/14 危険箇所を発見し、速やかに修繕することで、安全面の確保につなげることができた。 ○「子どもを守る家」の点検 PTA安全部と連携(1月実施) ○通学路の安全面の確保につながった。	・危険個所の発見を見逃さないためには、点検が必要です。子どもたちの安全安心のために、引き続き点検をお願いします。	・安全点検(学期1回)を実施し、危険箇所を発見した場合は、速やかに修繕することで、安全面の確保につなげる。 ・PTA安全部と連携して、「子どもを守る家」の点検(年1回)を実施する。
新型コロナウイルス感染症対策の徹底	生活	マスク・手洗い・体調管理の徹底	・登校前の児童の検温結果の確認(クロム) ・正しいマスクの着用の徹底	○Chromebookを活用した検温チェックシステムを導入したことで、登校前の児童の検温結果の確認が確実できるようになった。また、新型コロナウイルス陽性者が出た場合、検温結果の把握にも速やかに対応できる。 ○学校だより、保健だより、マチコミメール等で基本的な感染症対策について随時連絡し、ほぼ徹底することができた。	・子どもたちと教員の皆さんのために、新型コロナウイルス感染症対策の徹底をしていただきありがとうございます。	○基本的な感染症対策の徹底を保護者・地域へ発信しながら今後も続けていく。

		(養護教諭と連携)	教頭	「学校の新しい生活様式」についての共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・教委からの通知文を随時周知 ・職員会議や連絡掲示板にて教職員へ連絡 ・学校だよりやメール等で保護者や地域への発信 	○教委からの通知を、速やかに教職員・保護者・地域へ発信し、周知することができた。	・教委からの通知を速やかに情報共通することは大切です。引き続きお願いします。	・コロナ禍において、様々な情報の収集に努め、メールや学校だより等で、速やかに教職員・保護者・地域へ発信し、周知する。
		地域に開かれた学校づくり	教頭	学校運営協議会の熟議内容を学校運営に反映	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の協議内容を職員会議等で還流報告 ・学校関係者評価を実施し、次年度の学校運営にいかす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会 年間6回 (第1回 5/6 第2回6/3 第3回 10/26 第4回 11/2 第5回 1/27 第6回2/24) ○学校運営協議会での熟議の内容を学校通信に掲載し、保護者に発信した。 ○地域の方々に学習面、安全・安心面、環境整備面でたくさんのご支援を頂いた。 	・コロナ禍の中、この会議で学校の様子を知ることができました。学校と協働で何かできることがあるとよいのにと痛感しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の充実をはかり、学校と地域の効果的な連携・協働に努める。 ・協議内容を教職員に還流する。
		教頭	学校の教育活動の情報発信(学校だより・HP)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより年間20号以上 ・学年の行事等のHPの更新 各学年 学期2回以上(2学期から) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより26号(R4.1.27現在) ○HPの更新回数43回(R4.1.18現在) ○コロナ禍の中、なかなか来校できない保護者や地域の皆様に、学校や児童の様子を情報発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、HPの情報をいただけたのはとても良かったです。 HPありがとうございます。学校へ来校がなかなかできないので、学校の様子がわかってよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の皆様に、学校や児童の様子を伝えるために、定期的に学校だよりの発行やHPの更新を続ける。 	